

# 別稿 特寄

竹朋会会員の皆様方におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

私は、この度國學院大學硬式野球部の主将という大役を仰せつかり、伝統と格式のある本学野球部を常勝チームにするべく頑張っております。

本学野球部は、昭和六年春（一九八三年）國學院大、専修大、日本大、中央大、東京農業大で五大野球連盟を結成し、その後昭和十年創設の東都大学野球リーグに当初から参画した伝統あるチームです。しかし、残念ながら昨年秋の入れ替え戦で日本大学に破れ、二部降格となってしまいました。現在、春のリーグ戦で一部に復帰するため練習に励んでおります。

私が山本学園高等学校を卒業して三年が経ちました。高校時代の思い出は野球のことばかりで、日々練習に打ち込んでいたことを思い出します。野球部に入ることだけは、入試のとき試験監督をしておられた志藤監督から「高校でも野球を頑張れよ」という一言でした。中学時代に何も実績の無い私に声をかけてくださり、その言葉で山本学園でも野球をしたいと

思うようになり入部を決意しました。

入部してから三年間、夏の炎天下も冬の雪の中でも毎日厳しい練習に励みました。正直、山本学園の野球はつらく厳しいものでありましたが、そこには必ず達成感がありました。それは日々、目的・目標を持っていたからだと思いま



「夢へ向かって」  
國學院大學硬式野球部  
主 高橋 広 志  
(平成15年度 卒)

す。チーム全体が本気で勝ちたい、そして勝つためには何をしたらいいのかを考え、行動に表す。その結果が秋季県大会準優勝に結びついたのだと思います。

志藤監督からは常々、「頭を使えないやつは勝てない。常に考えに練習しろ。」と指導されました。

そして、月ごと週ごとのチームが与えられ、チームに沿った動きをしないと怒鳴られ、二時間に及ぶミーティング。真夏の炎天下でも平気で二時間立ったまま話をされました。高校時代には理解してはいるようでしたが、いいことがあったと思えてきませんが、大学野球をして今になってわかってきました。「技術には限界がある。しかし頭（人間力）には限界はない。技術で勝てなかったら知恵で勝負しろ。」と、本学の竹田監督からも毎日のように言われています。大学で監督から話をされるたびに、山本学園で志藤監督に言われた話と重なって山本学園で野球をしてきて良かったと実感させられます。

私は昨年、東都大学野球選抜チームに選出され、オランダで行われた国際大会に参加させて頂きました。しかし、リーグ戦では二部降格という悔しい思いも味わいました。二〇〇八年は私生活の面はもちろん野球においては主将としてチームを牽引して一部復帰を実現し、志藤監督をはじめ竹朋会や学園関係者、お世話になった方々に良い結果を報告できるように頑張る決意ですので、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願ひいたします。

## 計 報

前会長で顧問の渡辺慶子様が病氣療養中のごとろ平成二十年一月二十七日、ご逝去されました。本来なら創刊号に御挨拶を頂くところでしたが急逝のため叶わぬこととなりました。ここに生前中の多大なご尽力とご功績に敬意を表するとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

紳士服 婦人服  
オフィスウェア

株式会社 田丸

TEL.023(633)3711(代)

山形市流通センター2丁目9番地の1

FAX023(633)3710

